

平成16年11月1日、邑久郡3町の牛窓町・邑久町・長船町が合併し「瀬戸内市」が誕生しました。旧3町の地名は長い歴史の中で生まれ使用されてきました。今回は、それぞれの町名の由来や意味について紹介します。

牛窓の地名

「牛窓」は、万葉集に登場する古い地名です。しかし「牛間戸」(『山槐記』1179年)、「卯島津」(『海東諸国記』1467年)、「宇嶋門」(『室町幕府奉行人連署奉書』1552年)、「宇志間門」(『三藐院記』1592年)、「うしまと」(『鹿苑院殿嚴島詣記』1389年)、「牛窓」(『源頼朝下文』1185年)などと古くはいろいろな漢字が当てられています。漢字には意味があり、筆者が牛窓の地を踏み、漢字を当てたと考えると、「東の島の港」「家がある島の出入口」「四方が島

に囲まれたあいだ」「関がある出入口」などと土地柄を読み取ることができます。

また、地名由来で有名なのは、神功皇后伝説にまつわる話です。『風土記逸文』に「神功皇后のみ舟、備前の海上を過ぎたまひし時、大きな牛あり、出でてみ舟を覆さむとしき、住吉の明神、老翁と化りて、其の角を以ちて、投げ倒したまひき、故に其の処を名づけて牛轉と曰ひき、今、牛窓と云うは訛れるなり。」とあります。大きな牛が転んだ所を「牛転」と呼ぶようになり、やがて訛って「牛窓」になったとことです。

邑久の地名

「邑久」という地名は大変古くから郡名等で使われてきました。「邑久」と表記するようになるのは、和銅6(713)年に地名をおめでたい意味の二文字で記すよう定められてからです。それ以

前は「大伯」や「大来」などと言っていました。『和名類聚抄』という平安時代の辞典には、「邑久」と書いて「おほく(おおく)」と発音したことが記されています。最近の研究で、「大きな区域」を意味する地名ではないかという説が出されています。

6世紀ごろ、今の岡山県東南部を治めていた豪族が「大伯国造」でした。その勢力範囲が邑久郡となるのですが、和気郡などもとは邑久郡の内だったと考えられています。邑久郡は当初、まさに広大な郡だったのです。このように、1400年以



平城宮出土の木簡

出典：牛窓町史『資料編Ⅱ』

上前から使われてきた「おく」の名は、明治22(1889)年に成立した「邑久村」にも採用され、昭和27(1952)年には「邑久町」に引き継がれました。

長船の地名

「長船」は、古来から名刀の産地として知られ名工を数多く輩出してきました。文応(1260年〜61年)の年紀が刻まれている助近の刀に「備前国長船住人平助近」、文永9年(1272年)の年紀が刻まれている守家の太刀に「備前国長船住家造」などがあるのをはじめ、数多くの国宝の指定を受けている名工長光の正応2年6月日(1289年)の年紀が刻まれて

いる刀剣には、「備前国長船住左近将監長光造」などが見られます。鎌倉時代末期には、元重・則光・景光、室町時代の勝光・清光、江戸時代の祐定などの名が知られます。このように鎌倉時代後期以降備前長船の刀工の多くは刀剣の茎に居住地として、「長船」を刻みました。

「長船」の名は、江戸時代から「長船村」として岡山藩に属し、明治4年廃藩置県により岡山県の所属となり、明治22年に行幸村の大字となり、昭和30年に行われた美和村・国府村・行幸村の合併で成立した「長船町」で採用されました。

さらに詳しく知りたい人は次の町史をご覧ください。

- ・牛窓町史『通史編』5, 500円
 - ・牛窓町史『資料編Ⅱ』5, 500円
 - ・長船町史『通史編』4, 000円
- (いずれも市民価格)
■問い合わせ先
市教育委員会社会教育課
☎34-5604

まなぼー

このページは、生涯学習のページです。今回は、家族・地域・学校が力を合わせ、子どもたちをはぐくむ機会や場所をつくり、多くの大人が子どもとかかわりながら、共に生き生きと成長していくことを目指す「居場所づくり事業」の一部を紹介します。

芋版画



完成した芋版のはがきをする子どもたち

学校が休みの土・日曜日に、子どもたちに興味を持ったことに挑戦してもらい、みんなで楽しく遊ぼうと12月5日、牛窓町公民館で芋版画の年賀状作りが行われました。

子どもたちは、酉の絵など自分の好きなデザインをさつま芋に彫って、芋版を作製。彫刻刀の使い方が難しく、思うように彫れなくて悪戦苦闘していました。

参加した安井知奈美さんは「芋を彫るのが難しかったけど、芋版がきれいに完成した時は、すごくうれしかったです」と感想を話してくれました。

絵手紙



思い思いに筆を走らせ絵手紙を作ります

青少年の体験活動「いいものミツケ」の絵手紙講座が11月27日、邑久町公民館で開催され、参加した小学生4人は思い思いの酉の置物を見ながら絵をかき、文字を加えて絵手紙を完成させました。

子どもたちは講師の入江早苗さん・松本禮子さん・船橋都誉さんの指導を受け、垂直に立てた筆をゆくり運びながら紙いっぱいに絵をかき、色を付け、文字を添え、1枚1枚丁寧に仕上げました。子どもたちは「すごく楽しかったです」と笑顔で話しました。

おかざりづくり



名人に縄のない方を習う子どもたち

長船町公民館で12月11日、毎年恒例のおかざりづくり講座が開催されました。地域のおかざりづくり名人8人の指導のもと、小学生から大人まで合計68人が参加。

わらをすくなどの下準備の後、わらをたたいてやわらかくし、縄をない始めました。毎年参加している人は、去年の感覚を取り戻しながら作りますが、初めての人や子どもたちはなかなか上手になえず、苦労しました。

縄をなった後は、いよいよおかざりづくり。名人によっていろいろな種類のおかざりがあり、参加者たちも、名人にならって、思い思いに作っていました。来年も良い年が迎えられそうです。